

ワシントン州：小麦作柄と気象状況

2002年11月1日

2002年産小麦の作柄概況纏め：

ワシントン州に於ける2002年産冬小麦の播種は2001年8月下旬に開始された。同州東中央区にて播種が開始された当時の土壤水分は、80%がVery shortからShortの状態であった。その後も好天が続き土壤水分は減少した。一部農家は降雨待ちで播種を控えていた。9月9日現在播種の完了した圃場は29% (2000年同期：26%、平年：33%)であった。

冬小麦の播種は10月28日迄に全州の99%の圃場で完了した (2000年同期：100%、平年：98%)。出芽状況は土壤水分不足の影響より前年及び平年より遅れ気味で、10月28日の発表では、出芽した圃場は91% (2000年：97%、平年：92%)であった。11月18日になり全州の99%の圃場で冬小麦は出芽していた。この進捗は略平年並みと言える。当時の生育状況は、Fair：63%、Good：31%、Very poor及びPoor：6%であった。

12月の小麦の状況は、Adams郡では“平年より草丈が低目”と報告されていたが、他地区では略平年並であった。冬季のSnow coverは平年並みであり、凍結被害は報告されていない。2002年3月の下旬には冬小麦は休眠から覚め生育を開始した。2002年4月1日現在の小麦の生育状況は、Excellent：6%、Good：53%、Fair：39%、Poor：2%と発表されており、全般に平年並みと言えた。2001年9月1日より2002年3月31日までの降水量は、Walla Walla郡では平年の77%、Whitman郡では平年の69～80%であった。

2002年産春小麦の播種は3月下旬より開始された。3月31日には春小麦は25%の圃場で播種が完了していた (昨年同期：17%、平年：19%)。昨年及び平年より早い進捗であった。4月初旬～中旬に小麦地帯に於いて有効な降水があり、土壤水分が大幅に改善さ、4月14日現在Adequate：87% (Topsoil、Subsoil共)と成った。

4月の気温は概して平年を下回り推移した。4月23日には小麦主産地である州東南地区で霜があった。Walla Walla郡の東からWhitman郡にかけて土壤水分は略“適”の状態であったが、東中央地区のAdams郡やLincoln郡では土壤水分が不足していた。小麦の生育は、乾燥地帯では“Good”から“Fair”であったが、州の東側では“Good”と評価されていた。春小麦の出芽は4月の気温が低かった為、特に土壤水分の低かった地域で遅れていた。

5月に入っても気温は平年を下回り、平均気温で平年より8～10度F低い日が続いた。5月12日の段階で春小麦は95%の圃場で播種が完了 (昨年：98%、平年：97%)し、出芽は71% (昨年：81%、平年：84%)であった。州東中央地区の一部の冬小麦にsnow mould (紅色雪腐れ病：麦の根が腐る病気)が報告された。この病気はsnow coverが長期化(3ヶ月以上)した時、雪解けと共にFusarium菌により引き起こされる病気で、Snow blight (Typha菌及びSclerotia菌等による菌核病)とは異なる。冬小麦は5月19日までに6%の圃場で出穂した (昨年：14%、平年：13%)。5月19日に東中央地区に降雪、そして5月下旬に霜が降りた。霜害の程度は収穫期に成らないと判明しない。春小麦の播種は平年より凡そ1週間遅れて5月26日に完了した。5月の降水量は

少なく特に Adams、Lincoln、Walla Walla 郡で水分不足が目立った。

5月末から6月初めに掛け気温が上昇し、強風に見舞われた。Whitman 郡以外では降水が少なく、土壌水分不足により小麦のストレスが報告されていた。冬小麦は昨年及び平年より生育は遅れていた。遅れの原因は昨年秋の播種期の土壌水分不足と5月の低温に因ると言われる。春小麦は5月下旬に出穂を始めた。6月2日迄に冬小麦は28%が出穂した(昨年:41%、平年:52%)。

6月9日には冬小麦は50%、春小麦は37%の圃場に出穂していた。この時期に気温が下がり各地に降水が有り、小麦の土壌水分不足によるストレスは多少であるが解消された。6月10日以降、一時下がった気温は上昇し最高気温は各地で連日90度を越し、降水は部分的であり乾燥・高温の気象が6月末迄継続した。6月末に於けるシーズン降水量は、Walla Walla 郡では平年の55~57%、そしてWhitman 郡では平年の75~90%であった。高温・乾燥気象により、小麦は急速に成熟する結果となった。6月30日の段階で冬小麦の100%が出穂し、東中央地区の小麦は一部登熟期にあった。春小麦は82%(昨年:83%、平年:84%)が出穂していた。

7月初めに Walla Walla 郡の一部に雷雨が有り、又 Whitman 郡では7月5日に霜が降りる等気象の変化が激しかったが、7月7日現在の冬小麦は1%が収穫されており、これは昨年並びに平年のペースと成っていた。又、春小麦は98%が出穂していた(昨年:82%、平年:92%)。短期間に冬及び春小麦共に生殖成長を遂げたと言える。7月中旬には南東地区にて最高気温112度Fを記録し、Walla Walla 市では109度、Pullman 市では103度を記録した。全く降水の無い日が続き小麦の状況は悪化した。7月14日の生育状況は、冬小麦はExcellent:13%、Good:38%、Fair:40%、Poor:8%、Very poor:1%、春小麦の状況は、Excellent:7%、Good:29%、Fair:49%、Poor:14%、Very poor:1%と評価されていた。7月21日現在冬小麦は全体の8%が収穫され(作年:6%、平年:7%)、春小麦は3%が収穫された(昨年:3%、平年:1%)。Walla Walla 郡では収穫が進むに連れ不稔の穂や粒張りの悪い穂の存在が確認され、単位収量は平年の15~20%減と予想された。USDA の7月1日の生産量予想では、冬小麦の単位収量予想は65.0bu/acre(昨年:61.0bu/acre)、春小麦は45.0bu/acre(昨年:41.0bu/acre)と発表された。7月28日迄に冬小麦は39%、春小麦は15%が収穫されていた。7月の気象は高温・乾燥であった。

8月に入ってから各所で最高気温が更新され、高温・乾燥状態は更に続いた。冬小麦の収穫は8月10日に最盛期を迎え、春小麦は凡そ8月18日頃全州の55%で収穫を完了した(昨年:55%、平年:54%)。8月20日にはWhitman 郡の西部にて冬小麦収穫は終了し、東部アイダホ州寄りの丘陵地帯での収穫が開始された。同郡でも冬小麦の単位収量は平年以下であることが報じられた。好天が続き収穫は平年より早い進捗を示し、9月1日現在冬小麦の98%(昨年同期:98%、平年:96%)、春小麦の94%(昨年:90%、平年:88%)が収穫されていた。2002年産冬小麦並びに春小麦の収穫は9月10日までに全州で完了した。

冬小麦も春小麦も栄養生長では昨年並びに平年より遅れていたが、出穂以後6月中旬から9月まで続いた高温・乾燥気象の結果、冬小麦の収穫完了は略平年並みとなり、春小麦の収穫は平年より多少早く完了する結果となった。

2002年産小麦の生産量: (2002年8月1日及び10月1日付けUSDA予想)

USDA の7月1日予想では冬小麦は65.0bu/acre、春小麦は45.0bu/acreと発表されて

いた。しかし、6月中旬以降高温・乾燥気象が続いた事、又一部に5月の晩霜に因る不稔の発生が確認された事等に因り、8月1日のUSDA予想では単収が下降修正された。10月1日のUSDA発表では、冬小麦は59.0Lbsと成ったが、春小麦は43.0Lbsと8月1日発表より増え、昨年より良い結果となった。

	Area Harvested		Yield			Production	
	2001	2002	2001	2002 bu/acre		2001	2002
	1000 acres	1000 acres		bu/acre	Aug. 1		
Winter	1,750	1,750	61.0	60.0	59.0	106,750	103,250
Spring	630	615	41.0	42.0	43.0	25,830	26,445

作付面積の推移：

	2000 Crop	2001 Crop	2002 Crop
	Acres		
Winter wheat	1,850,000	1,850,000	1,800,000
Spring wheat	625,000	640,000	640,000

上記の内 Soft White wheat (軟質白小麦) の作付面積は次の通りである。

	2000 Crop	2001 Crop	2002 Crop
	Acres		
Winter wheat	1,650,000	1,750,000	1,667,000
Spring wheat	428,000	425,000	456,000

作付け品種：

2002年産冬小麦の作付面積は1,800,000エーカーと発表されおり、内 Common Soft White の作付面積が1,435,000エーカー(79.8%)、Club が231,200エーカー(12.8%)で、Soft White の合計は1,667,000エーカーであった。Hard Red Winter の作付面積は133,000エーカー(7.4%)と発表されている。

2002年産 Common Soft White の作付け第1位の品種は Eltan (391,200エーカー)であった。年間降水量が10インチ程度の乾燥地帯に適した同品種は、州東中央区にて375,000エーカー作付けられた。第2位は Madsen (308,500エーカー)であり、州南東地区(年降水量12~22インチ地帯)を中心に作付けられた。Common Soft White は全州で57品種が作付けられたと言う。

2002年産 Club 小麦の作付面積は、Soft White Winter の作付面積の13.87%を占め、その作付け主産地は歴史的に乾燥地帯の東中央区(220,000エーカー)である。作付け第1位の品種は Bruehl で77,700エーカー、第2位は Edwin (52,700エーカー)であった。Bruehl は2001年産より作付けが開始された新品種である。Club 小麦は Common White に比較し病気(特に黒穂病)に冒され易く、耐 dwarf bunt (萎縮腥黒穂病)の品種が開発されて来た。新品種が発表される中、古い耐 dwarf bunt 及び耐 strip rust (黄さび病)として有名な品種 Moro (1965年リリース)が第4位の作付面積を保っている。

2002年産春小麦の作付面積は640,000エーカー(100.0%)であり、内訳は Common Soft

White が 456,200 エーカー (71.3%)、Hard Red が 167,800 エーカー (26.2%)、そして Hard White が 16,000 エーカー (2.5%) と成っている。

春小麦に於ける Common Soft White の作付け第 1 位の品種は過去数年 Alpowa であるが、2002 年には 277,400 エーカーと 2001 年産の作付面積より 11,900 エーカー減少した。Alpowa は乾燥地帯である州東中央地区を中心に作付けられているが、同時に比較的年降水量の多い州東南部に掛けても広く栽培されている。一方、第 2 位の品種 Zak は 2001 年に 3,300 エーカー作付けられた新品种であるが、2002 年には 93,200 エーカーの作付けと急速に普及した。同品種は南東地区 (63,000 エーカー) に集中し作付けられている。

冬小麦 (Soft White) の上位 5 品種の作付面積推移 :

Class & Variety	2000 Total	2001 Total	2002 Total	2002 Crop				
				West	Cent.	N. East	E. Cent.	S. East
<i>Common White</i>	Acres			Acres				
Elatn	403,600	438,200	391,200	-	11,700	1,800	375,000	2,700
Madsen	455,800	397,900	308,500	900	8,000	62,300	33,000	204,300
Madesn-Rod	124,300	145,000	148,100	-	-	4,400	8,900	134,800
Stephens	98,200	83,800	111,600	1,800	13,700	-	41,600	54,500
Cashup	75,100	74,900	76,000	3,200	-	-	7,300	65,500
Others	298,400	333,000	400,400	100	36,100	21,200	145,900	197,100
<i>Toatal CW</i>	<i>1,455,400</i>	<i>1,472,800</i>	<i>1,435,800</i>	<i>6,000</i>	<i>69,500</i>	<i>89,700</i>	<i>611,700</i>	<i>658,900</i>
<i>Club wheat</i>								
Bruehl	-	4,400	79,400	-	-	-	77,700	-
Edwin	-	39,200	54,400	-	-	-	52,700	-
Coda	22,900	63,400	37,800	-	-	-	31,900	5,700
Rely	163,300	88,400	37,700	-	-	-	37,600	-
Moro	21,300	16,000	12,800	-	-	-	12,800	-
Others	27,500	18,600	9,100	-	300	-	7,300	5,200
<i>Total Club</i>	<i>235,000</i>	<i>230,000</i>	<i>231,200</i>	<i>-</i>	<i>300</i>	<i>-</i>	<i>220,000</i>	<i>10,900</i>
<i>Total HR</i>	<i>159,600</i>	<i>147,200</i>	<i>133,000</i>	<i>-</i>	<i>62,200</i>	<i>1,300</i>	<i>57,300</i>	<i>12,200</i>
G. Total	1,850,000	1,850,000	1,800,000	6,000	132,000	91,000	889,000	682,000

春小麦 (Soft white) の上位 5 品種の作付面積推移 :

Class & Variety	2000 Total	2001 Total	2002 Total	2002 Crop				
				West.	Cent.	N. East	E. Cent.	S. East
<i>Common White</i>	Acres			Acres				
Alpowa	283,700	289,300	277,400	-	27,500	17,500	155,700	76,700
Zak	-	3,300	93,200	-	-	13,000	17,100	63,000
Wakanz	18,800	33,000	19,400	-	-	-	-	18,800
Wawawai	40,400	25,400	15,800	-	-	-	-	14,700
Edwall	16,500	13,000	15,100	-	-	-	4,100	8,600
Others	68,500	61,500	35,300	1,000	5,800	5,700	14,500	12,800
<i>Total CW</i>	<i>427,900</i>	<i>425,500</i>	<i>456,200</i>	<i>1,000</i>	<i>33,300</i>	<i>36,200</i>	<i>191,400</i>	<i>194,600</i>

<i>Total HR</i>	<i>172,700</i>	<i>210,500</i>	<i>167,800</i>	-	<i>32,000</i>	<i>4,800</i>	<i>62,300</i>	<i>68,700</i>
<i>Total HW</i>	<i>24,400</i>	<i>4,000</i>	<i>16,000</i>	-	-	<i>1,000</i>	<i>13,300</i>	<i>1,700</i>
G. Total	625,000	640,000	640,000	1,000	65,000	42,000	267,000	265,000

2002年産 Soft White wheat の品質：

2002年産冬小麦の生育は、播種期の土壌水分不足と栄養成長期の4月から5月に於ける低温・乾燥の為平年より遅い生育を示した。春小麦の出芽後の生育も5月の低温・乾燥により遅れ気味であった。5月下旬まで平年より低目で推移した気温は、6月に入り急激に上昇した。2001年9月1日から6月末までの降水量は、東中央地区では平年の55～60%であったが、南東地区では部分的に降水が有り平年の75～90%であった。7月初めに多少気温が下がったが、その後最高気温が100度Fを越え又降雨の無い日々が続いた。冬小麦並びに春小麦はその乳熟期以降に高温・乾燥に見舞われた。結果として平年より多少早めに、冬小麦は8月10日頃、そして春小麦は8月18日までに収穫の最盛期を迎えた。

Common Soft White は、2001年産小麦に比較し容積重、1000粒重は多少低目（32.1～35.5gram）と報じられた。容積重の範囲は収穫の早かった小麦では59Lbs台であったが、収穫が州東部に移り60～61Lbsに高まった。蛋白質は乾燥地区の小麦に12%台（水分12%ベース）も存在したが、概ね10%～11.0%に収まった。小麦粒水分は2001年産より低く8.2%～9.8%に集中した。小麦水分は州の東に行くほど高目の傾向であった。小麦の収穫期に好天が続きであった事により、発芽粒の発生は殆ど無く、FN値は低い数値でも330台であった。

Clubの容積重は59.5～61.5Lbsの範囲で、多少2001年産を下回った。粒は多少昨年より小さく、水分は8.6～10.2%と昨年より多少低目であった。蛋白質は昨年より多少低目の8.6～11.0%の範囲であった。FN値は340～450であり、正常値と言える。夾雑物はCommon Soft Whiteでは0.3～0.9%、Clubでは0.4～0.8%に集中していたが、全体として2001年産より少な目であった。

当該作柄レポートに関するご意見・ご質問は下記宛てにお願い致します。

小川正晃：E-mail ogawa.max@omicnet.com